

ENCOM YOKOHA

MA

ニュースレター

No.1

April 2015

カトリック横浜教区難民移住移動者委員会

〒231-0055 神奈川県横浜市中区末吉町 1-13
カトリック末吉町教会内
TEL : 045-315-7040 FAX : 045-315-7080
E-mail : encomyoko@gmail.com

ご復活おめでとうございます！

ENCOM YOKOHAMAの事務所が末吉町教会内に開設されてから、はや二年が経とうとしています。折にふれて、各小教区、修道会、個人の方々からも多大なご支援をいただき、感謝申し上げます。その後のENCOMの活動の一端を、ご紹介したいと思います。

・小・中学生のための学習支援

毎週土曜日午後2:00~4:00、外国につながる子どもたちのためにボランティアの大学生、教員、シスターが個別指導しています。



《百人一首をしているところ》

フィリピンにつながる子供たちの学習支援教室を始めてからちょうど一年半が経ちました。当初中学二年生だった二人の男子生徒が中学を卒業し、無事に高校へ進学しました。毎週、10人弱の子供たちが集まり、それぞれ宿題や漢字の練習、正しい日本語の使い方を勉強しています。子供たち同士も年齢を越えて仲良くなり、学校や家とは別の居場所になっています。横浜市内には行政、NPOによる学習支援

教室がすでに多数ありますが、フィリピン人が定着するケースは少ないようです。もともと教会にはフィリピン人同士のネットワークがあり、フィリピン人のレイミッシヨナリーがいるという利点を活かし、教会だからこそできる支援を今後も続けていきたいと思えます。 大河内妙（聖心侍女修道会）

・日本語教室

毎週1回、楽しく学ぶことをモットーとして、日本語教室を開いています。

・中国語教室

毎週火曜日10：30～12：00、中国人ボランティア講師による中国語講座が開かれています。

・講演会主催

「技能実習生制度～その現状と支援」について、2月20日(土)末吉町教会で、NPO 法人「移住者と連帯する全国ネットワーク」代表理事の鳥井一平氏にお話を伺いました。(以下、内容要約)

急速に進む少子高齢化の日本では、深刻な労働力不足により、様々な分野で外国人労働者の存在が不可欠ですが、その移住労働者を確保する方法として、政府は「外国人技能実習制度」を導入しました。その目的は、建設・製造・農業などの技術を身につけて帰国し、開発途上国の発展を担う「人づくり」に協力するとされていますが、実際は、人手不足の零細工場や農家の経営者が、劣悪な労働条件で一定期間安く雇用することができる制度なのです。時給300円に不服を言うと強制帰国、ピンハネ、セクハラが日常化し、まるでモノ扱いという実態には、国連などからも、人権侵害、奴隷労働、人身売買とまで批判と改善勧告を受けながら、官民ともに真摯に対応していないのが現状です。

しかし、経営者はごく普通のおじさんたちで、彼らを「邪悪な欲望に支配される」人に変えてしまう、この恐ろしい技能実習制度はただちに廃止し、移動・企業選択・辞める自由、使用者を選ぶ権利、定住を妨げないという、新たな「受け入れ」制度の導入が急務です。

技能実習生への非人間的な扱いは、「ヘイトスピーチ」と同じ土壌から生まれるのです。

「爆買い」して日本経済に貢献する外国人観光客は大歓迎する陰で、私たちが直接利用している道路、農産物や水産物の製造・加工、介護、コンビニ、配送、清掃など底辺を支えている外国人労働者の問題に対しては目をつぶるというのでは、真の国際人たりえないのは明らかです。

他民族、多文化共生社会はすでに始まっています。まずは、移民の存在なくして成り立たないこの社会という事実を直視する力を養いたいものです。

❖関連 DVD もぜひご覧ください。「孤独なツバメたち」～デカセギの子どもに生まれて～

日本とブラジル—2つの故郷の間で揺れ動く、日系ブラジル人の若者たちの知られざる青春を追ったドキュメンタリー。ひたすらに労働することを求め、景気が悪くなれば出身国に帰すというスタンスでしかデカセギを受け入れない日本。その結果、その子どもたちはアイデンティティを失っていく。私たちは、そういう彼らの犠牲の上に今を生きているという、衝撃的な事実を目を開かされます。

✳️新しいパンフレットができました

ENCOM紹介のパンフレット（日本語・英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語）ができましたので、ご利用ください。事務局までご連絡いただければお送りします。